

渡辺教授の日本補綴歯科学会学会論文賞：顎口腔機能学会賞の受賞に寄せて(受賞)

著者	佐々木 啓一
雑誌名	東北大学歯学雑誌
巻	22
号	2
ページ	122-122
発行年	2003-12-30
URL	http://hdl.handle.net/10097/31838

渡辺教授の日本補綴歯科学会学会論文賞・ 顎口腔機能学会賞の受賞に寄せて



この度、現歯学研究科長の渡辺誠教授（加齢歯科学分野）が、平成14年度日本顎口腔機能学会賞、平成14年度日本補綴歯科学会学会論文賞を受賞された。日本顎口腔機能学会賞は、顎口腔系の諸機能に関する基礎ならびに臨床の真理を探究し、その進歩発展を図ることを目的とする日本顎口腔機能学会が、当該の学問領域において顕著な貢献をしたものを顕彰するために設けた賞である。氏を含めこれまで5名が受賞されている。一方、日本補綴歯科学会学会論文賞は、歯科補綴学領域の学問及び技術に顕著な貢献をした研究者に送られる賞であり、日本補綴歯科学会雑誌に掲載された学術論文の著者から選考される。これまでに10名の著名な教授が受賞しており、氏の受賞対象論文は「顎関節症の治療に伴う咬合接触面積の動態に関する研究」（補綴誌46巻）である。

東北大学歯学部1回生である渡辺教授は、学部卒業後、当時歯学研究科が未整備であったこともあり、学問・研究を求めて医学研究科の生理学第二講座の大学院に進学された。第二生理は故本川弘一教授（第12代東北大学総長、初代歯学部長）が電気生理学実験法、特にEEG（脳波）を世界に先駆け開発応用し、いわゆる「本川生理」として名を馳せ大脳生理学、視覚生理学に関する研究で本邦のみならず世界をリードしていた教室である。氏はこの教室の一員としてさまざまな生物を対象として視覚生理に関する研究に従事し、電気生理学を柱とした実験手法ならびに生理学的な研究思考を修得された。

歯学部に戻られた後は、口腔機能に関する研究にこれらを導入し精力的に推進された。特に歯根膜感覚をはじめとする口腔感覚の機能的役割について、動物を用いた基礎研究から患者を対象とした臨床研究までの一連の研究を進め、現在の顎口腔機能学の構築に寄与した。さらに氏は、歯科臨床にとっての大きな課題である咬合に関し、生理学的な観点からのアプローチを行った。すなわち上下顎歯の咬合は顎筋群の活動により決定されることから、顎筋活動の電気的信号（筋電図）をフィードバック信号として利用し、患者本来の機能的な下顎位決定を行う方法、さらにその下顎位での咬合診査を行う方法（EMGバイオフィードバックを利用した下顎位決定法・咬合診査法）を開発した。また、この方法による顎関節症の咬合診断、咬合治療に応用し、顎関節症における咬合因子の関わりを明らかにす

るとともに、治療成績を大きく向上させるに至った。さらに咬合や顎口腔機能の研究にいち早く生体力学的視点を導入し、感圧フィルムを用いた咬合力測定システムの開発を行い、これらを利用することにより歯列上の咬合力分布から見た咬合の正常像、異常像を明らかにした。また氏の研究室では現在、咬合力を指標とした咬合診断システムの開発が進行中である。

氏のこれらの研究成果により、本邦の咬合や下顎位に対する概念は、従来のナソロジー学派に代表されるような機械的でキネマチックなものから、生理的、機能的なものへと大きく転換し、また顎口腔系の形態、機能の捉え方、顎関節症をはじめとする顎口腔系機能障害の発症メカニズムの捉え方に、生体力学的な観点が広く導入されるようになった。さらに従来の物作りを主体とした歯科補綴学が、生物学的要素を積極的に取り込む契機となり、広く普及するに至っている。

氏の研究成果はいずれも、顎口腔系における歯根膜の役割を一滴の原点として、これを究明してこられた結果として捉えられる。研究に対する姿勢の一途さと研究の連続性、深化こそが、本来の研究目的の達成とさらには研究領域の拡大に繋がることを実証したものであり、若手研究者にとっての範となるものであろう。

今回の二つの学会賞受賞は、まさに氏のこれまでの研究活動、業績が評価された結果であり、氏の高邁なる考えが広く普及したことを示すものである。今後もこれらの研究をさらに発展させるとともに、新たな風を歯学研究に吹き込んでいただくことを祈念する。

（文責 佐々木啓一）

渡辺誠教授略歴

- 昭和46年 3月 東北大学歯学部卒業
- 昭和50年 3月 東北大学大学院医学研究科修了
- 昭和50年 4月 東北大学助手（医学部生理学第二講座）
- 昭和51年 4月 東北大学助手（歯学部歯科補綴学第二講座）
- 昭和59年 9月～昭和61年 3月 文部科学省在外研究員（カナダ・プリティツシュコロンビア大学口腔生物学講座）
- 平成 3年 8月 東北大学教授（歯学部高齢者歯科学講座）に昇任
- 平成12年 4月 東北大学歯学部附属病院院長に併任
- 平成12年 11月 東北大学大学院歯学研究科長に併任（現在に至る）